



謹賀新年

山口赤十字病院
JAPANESE RED CROSS YAMAGUCHI HOSPITAL

地域の先生と山口赤十字病院をつなぐ

やまぐちcross



新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

当院は日赤病院として開設後102年目を迎えます。今年8月には新北病棟が竣工し、病棟移転・外来引っ越し開始し、その後、東病棟改修・南病棟解体、外構整備を使い2024年10月頃に全ての工事が完了する予定です。新病院概要は、

構造：鉄筋コンクリート及び鉄骨造

階数：地上5階建（鉄骨部は8階建）

延床面積：約1万4千㎡

放射線治療機新調：トモセラピー導入

緩和ケア病棟維持、陰圧部屋も増設します。

入院病床総数は377とダウンサイジングとなりますが、地域医療支援病院・災害拠点病院・2次救急医療病院・小児救急医療拠点病院・地域周産期母子医療センターの使命を果たすべく職員一丸となって精進する所存です。



【今回の担当医師】

院長

末兼 浩史（すえかね ひろし）

COVID-19対策

新型コロナウイルス感染症問題は避けられない話題ですが、現在の規制緩和の中、感染者数がワクチン接種と市民レベルの感染防御策の効果でこのまま減少するとは楽観できず、予測不能の第六波への懸念で行政からは受け入れ病床増の依頼が来ています。ワクチン対策も含め状況を見て変更される政策にも躊躇せず協力しています。新型コロナウイルスワクチンの3回目接種は1、2回目接種が終了して半年以上が経過した対象者に行政主導で接種券を先行郵送配布し、2021年12月中に医療従事者の接種を開始、その後、2022年1月からは高齢者接種を他施設共同で開始、当院でも土日に自院と市予約システムと連携の上、予約受付をして1、2回目接種と同様に順次3回目接種を行う予定としています。

専門内科の標榜について

これまで各専門内科医が「内科」として診療を行ってきましたが、現場の意見を反映して2020年11月より各専門内科（消化器内科、呼吸器内科、膠原病内科、糖尿病内分泌内科、腎臓内科）を標榜し診療を行なうこととなりました。プライマリケア・かかりつけ医としての役割はクリニックの先生方にお任せしながら、当院では専門性の高い医療を提供できるよう推進していきたいと思っております。一般的な病状については、これまで通り新患担当医師が診療し専門性の特化できない急患や通常の肺炎などはこれまで通り内科系の当番医が担当します。

健診部門の充実と業務改善について

新型コロナウイルス感染症の影響で、がん検診の受診者が約3割減り、主な5種のがんで約4万5千人の診断の遅れが推計され、進行がんが見つかるケースが増え、予後や死亡率の悪化が懸念されていることが昨年11月の新聞に掲載されていました。緊急事態宣言などで2020年4月以降は各種健診の一時中止、その後も受診控えや通院控えが続いたため、全国的に早期診断されるケースの減少が目立ち、学会の調査では胃がん・大腸がんの治療も15%以上減少している様です。当院に目を向ければ、健診受診者は1割減、便潜血反応陽性者の当院への2次検査受診率は40%以下という厳しい現実が認められます。地域からのご紹介のおかげで胃がんの内視鏡治療件数は増えていますが、残念ながら、大腸内視鏡・ポリペクトミー件数、胃がん・大腸がんの手術件数は減少しています。今年度はこれらを取り戻すべく院内で健診プロジェクトを立ち上げ、業務効率・予約システムの見直しを図り、受診者数の回復と2次検査受診の増加を奨励したいと思います。また、山口県の乳がん検診と子宮がん検診の受診率：全国最下位の現実を受け、新病院では女性専用外来を開設し女性のがん診療を強化する予定です。診療レベル向上のため、地域のクリニックの皆様にはこれまで以上のご紹介とがん検診受診のご協力をお願いいたします。

当院の救急医療の現状

平日日勤帯は毎日、夕方5時以降の夜間～早朝の2次救急時間帯は年間188日救急搬送があり、年間二千台以上の救急車搬送を受け入れています。一昨年より地域のクリニックの方々にも必要時は救急車を積極利用頂く様お優しい2次救急時間帯のみならず平日日勤時間帯の救急搬送も増えた結果、救急車からの入院収容率は6割へアップしています。本格的な冬を迎え、混み合う時間帯に救急スタッフの応援・補充を行って重なってもできるだけ応需できる体制を作り、病床調整についても毎週の会議で事前に空きベッド調整し、受け入れができるよう準備を整えています。2次当直は地域における病院の最重要任務です。当直担当の医師には体調に留意しながら博愛精神で地域医療貢献の矜持を意識した崇高な業務遂行をお願いしています。



小春日や心亡くさぬ聴診器

軽やかにクレーン廻る小六月